

平成27年度 船員安全取組大賞

受賞：日本郵船株式会社（東京都千代田区）

取組の名称：乗組員の姿勢と意識改革活動（安全体感研修と Power+プロジェクト）

取組の概要：ISM コード、STCW 条約で安全担保の仕組みは整っているが、実際に作業するのは船員本人であり、当事者意識が重要である。その姿勢と意識を改革し、①人身事故件数／LTIF（Loss Time Injury Fatality）半減、②操船事故件数半減、③遅延時間半減を目指す

【取組の内容】

添付参照。

【成果】

- 取組開始後の平成 28 年度には平均遅延時間（ダウンタイム）が減少し、過去最少となった。

乗組員の安全に対する姿勢と意識改革活動を行い平均遅延時間が平成 27 年度の 19.1 時間から平成 28 年度は 11.2 時間に減少し、過去最少となった。

遅延時間の推移（ダウンタイム※）



※ダウンタイム

衝突、座礁、機関事故等により本船サービスが停止したすべての時間

船員向け安全体感研修

・概要

安全体感研修とは、人身事故が発生する状況を作り、模擬的に体感させる事でその危険性を実感させる研修です。船内には常に危険が潜んでいる事を身体で理解させ、潜在的に意識付けすることで人身事故を予防する事を目的としています。

※本研修で使用する施設及び機材は定期点検が実施され、各プログラムにおいても研修生の安全には十分に配慮しています。

・研修内容

① 落下物に対するヘルメットの役割

人の頭に見立てた植木鉢にヘルメットを被せ、約5mの高さから鉄球を落下させます。ヘルメット内の保護具有り・無しの各ケースで植木鉢が割れるところを見せ、衝撃の強さと、ヘルメットと保護具の効果を実感させます。



② 安全ベルトのロープ強度

安全ベルトのロープは衝撃を吸収する役割を果たしますが、1度衝撃を吸収した後は衝撃吸収力が低下する例を実演し、再使用の危険性を理解させます。



③ 安全ベルトとハーネスの正しい使い方、ぶら下がり体験

安全ベルトとハーネスを使用し、実際にぶら下がる時に身体にかかる負荷を体感させ、適切な使用方法を説明します。

また、安全ベルトとハーネスの使用を比較させる事で、身体に負担がかかりづらいハーネスの有効性を実感させます。



Full Harness 装着



Self-Blocking Lifeline の紹介



④ 梯子の正しい使い方、危険体感

梯子には適切な使用角度や裏表があることを教え、正しい使い方を説明します。

その後、不安定な状態を再現した梯子に実際に登らせ、「ヒヤリ」とする体験をさせます。梯子による事故を防ぐために、2人以上で作業にあたる事やロープによる補助など、対応策を紹介します。



足元が滑る



梯子が後ろに反る

⑤ クレーン作業の危険体感

クレーンワイヤーの安全耐荷重超過と不適切な玉掛け※によるワイヤー破断や、竹を指に見立て、手袋越しでもワイヤーに挟まれた時には骨折の危険性があるという事を、その音を聞かせて実感させます。また、重量物吊り上げ時に挟み込まれる様子などを実演し、危険性を体感させた後に安全な使用方法を説明します。

※玉掛け：クレーンなどに物を掛け外しする作業のこと



その他にも、安全靴の重要性や回転機器による巻き込み事故の検証、静電気火災の実演や感電体験など、船内に潜む危険を船員には身体で理解させ、安全性の向上につなげています。

「Power+プロジェクト」 次世代安全活動

Power of the Human Touch

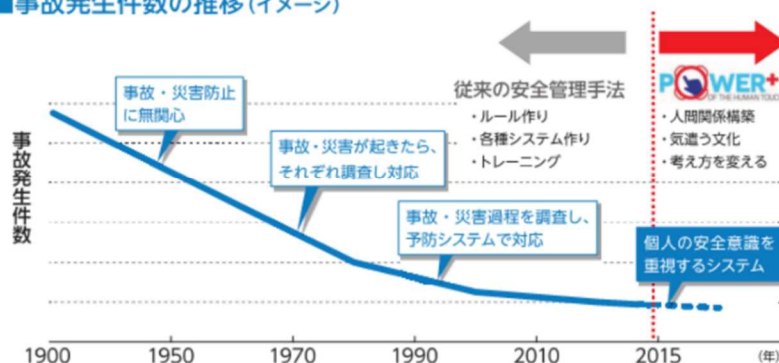


・発足の背景

発足の背景

事故発生率や遅延時間の削減は、設備の改善やマニュアルの整備など従来の安全管理手法により一定の成果を挙げてきました。さらなる削減のために次の一手として考え出されたのが「POWER+プロジェクト」。人間が本来持ち合わせている、危ないことを避けようとする意識、家族や大切な人を守ろうとする意識を引き出すことによる安全文化の醸成を目指して発足しました。

■事故発生件数の推移(イメージ)



・活動のコンセプト

基本コンセプト

「We are one team——one family」

どんなに立派なマニュアルがあっても、どんなに訓練を重ね技術力があがっても、最終的に結果に繋がる行動を起こすのは、乗組員の一人ひとりであるという概念の下、乗組員の姿勢と意識の改革を促しています。



ポイント Human Touch

人は、家族を大切にし、年上を敬うといった行動を自然とできるものです。船上でも人と人のつながりを大事にし、互いに理解し、敬い、助け合うこと、そう心に誓うことを目指します

手法 マインドフルコーチング

一方的に「教える」「指示する」のではなく、相手から何かを引き出すように話す。双方向の会話を心掛け、Yes・Noでは答えられない質問で、相手がより深く考え、発言することを求めます

手法 ブレインフレンドリー

けがをした人のその後の人生やその家族の話など、胸が締め付けられるような話を聞くことで、人々の意識に強く印象づけようという考え方で

・活動事例

「Power +」から創られた安全のための「SMILE」



乗組員同士のコミュニケーション向上や安全意識の醸成を目的として、当社グループの船舶管理会社であるNYK SHIPMANAGEMENT社で、SMILE (Stay Motivated & Innovative – Let's Enjoy) キャンペーンを立ち上げました。運航船から乗組員たちの笑顔あふれる写真を応募し、全船に展開しています。

安全に笑顔で帰ってきて

乗組員の乗船時、NYKSM社から家族宛てに「Joining Letter」を送付し、家族からも乗組員へ「安全に家に帰る」ことを言葉にして伝えてもらう

✉ 家族宛ての Joining Letter (一部抜粋)

We really know it's never easy spending time away from your loved ones.
Whilst at sea (乗組員名) will be part of the NYKSM Family. We will commit to making sure they're looked after and return home safely with a smile.
We would also ask for your support. Every time you call, or drop them an email, please ask them to honour their '3 promises'. Support them to remain positive and focused:
Commit to doing work they can be proud of
- each and every day
Care for the well-being of their fellow crew
Celebrate small daily successes
We want to thank you for your support.
We're one team - one family

マインドフルコーチングのエキスパートへ

乗組員全員がマインドフルコーチングについて理解・実行できるような仕組みづくり



効果的なマインドフルコーチングテクニックや POWER+プロジェクトの概要を説明

※NYKSM…NYK SHIPMANAGEMENT 社の略称